令和５年産米用

お米の栽培履歴

あぜみち日誌

令和4年第9回「地元のお米・野菜・ぼく・わたし」 図画コンクール
最優秀賞　大きな口でスイカをたべるぼく

1回目　令和５年 7月 10日(月)

2回目　令和５年 米の初出荷時

生産工程管理（GAP）シートも忘れず記入し、初出荷時に提出してください。

栽培履歴の提出がない場合、米の集荷が遅れる場合があります。

最寄りの営農センター、支店、プラザ店へ提出してください。

JA北魚沼

令和５年度　魚沼米の品質向上・収量確保に向けた技術対策

【重点技術対策】　～異常気象に備えた丈夫なイネづくり～

◎目標：コシヒカリ１等米比率：90％以上　10a 当たり収量：510kg

異常気象に備える技術	
1　土づくりの推進と根域の確保 （気象変動に対応できる土づくりと根域の確保）	①土壌診断に基づく堆肥や土づくり資材の積極的な施用による地力の維持・向上 ②根域を広げ、根の健全な発達を促すため、耕深 15cm を目標に耕耘作業の実施
2　健苗育成、良質茎の早期確保	①田植時期に合わせた種子予措及び適期播種の徹底、弁当肥の施用による活着促進 ②地域条件に合わせた適期の田植え（平坦地：５月 20 ～ 25 日　山間地：５月中旬から）
3　適期中干しの実施 （大柄にしないイネづくり）	①移植後 25 日を目安に茎数を確認し目標穂数の７～８割を確保したら、中干しを開始。（遅くとも移植後 30 日までに開始） ②溝切りは確実に行う。（地耐力の確保、迅速なかん水） ③根の健全化を図るため、中干しは出穂１か月前までに終了
4　作期分散、セーフティネットの活用（品質・収量低下など気象災害への備え）	①早生、晩生を組み合わせた複数品種でのリスク分散 ②技術対策ではカバーしきれない品質・収量低下への備えとして収入保険等への加入促進

異常気象に対応する技術	
1　生育診断に基づく後期栄養確保・水管理	①生育診断に基づく適正な穂肥施用 ・分施体系は籾数確保と倒伏防止のため１回目の穂肥診断の徹底 ・高温年における３回目穂肥・一発施肥における追加穂肥の実施 ②登熟向上のための水管理 ・登熟期間は飽水管理を徹底し、地力窒素の吸収と根の健全化を図る。 ・落水期は出穂期 25 日後以降とする。
2　適期収穫と適正乾燥・調製の徹底	①登熟状況に対応した適期収穫 ・出穂後の積算気温による作業計画の作成 ・籾の黄化割合の確実な把握による適期収穫の実践（刈り遅れ防止） ・フェーン等の異常気象に対応した収穫作業の実施 ②籾水分に応じた乾燥温度の設定による胴割粒の発生防止
3　病害虫防除の徹底	①耕種的防除と薬剤防除による防除対策の徹底 【斑点米カメムシ類】 ・適期・適切な防除の徹底（特に粒剤は、散布時の水深や気象に注意） ・畦畔及び水田内雑草管理の徹底、色彩選別機の有効利用 ②発生状況を踏まえた適期防除 【いもち、ごま葉枯病】 ・いもち病　：上位葉に葉いもちが目立つ場合や出穂後の気象に応じた防除の実施 ・ごま葉枯病：秋落ち水田等を中心に土づくりや後期栄養確保のための肥培管理の実施 ：多発生地域は薬剤防除を検討する。

魚沼地域農業振興協議会

【魚沼市、魚沼市農業委員会、北魚沼農業協同組合、新潟県農業共済組合魚沼支所、魚沼市土地改良区、魚沼農業振興部】

【 お問い合わせ先 】

・ＪＡ営農指導課　025-793-1770

・魚沼農業振興部　025-792-1309

魚沼米憲章

～トップブランド「魚沼コシヒカリ」の更なる飛躍を目指して～

序 文

トップブランド魚沼コシヒカリの産地として、魚沼の自然、そして何よりも消費者と向き合った米づくりを進めるため、以下の四つの取り組みを魚沼米に携わるもの全ての共通理念として掲げ、生産者・関係団体が一体となって実践する。

一、魚沼コシヒカリを育んだ故郷魚沼の自然に感謝し、地域の環境保全、景観に配慮した農業を推進します。

一、日本一の良食味米産地として、消費者に最高の食味の魚沼コシヒカリを安定的に提供するため、「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条を徹底して実践します。

一、消費者との対話に努め、常に消費者に安全・安心を提供していくため、「安全・安心の米づくり」に向けた5か条を徹底して実践します。

一、常に栽培技術の向上・研鑽に努め、米づくり八十八の手間を惜しむことなく、最後の一粒までトップブランド魚沼コシヒカリに仕上げます。

魚沼米改良協会・魚沼米対策協議会
地域振興局(林)振興部(長岡・魚沼・南魚沼・十日町)

1.「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条

(1)　美味しさと品質を最優先した米づくりとするため、目標収量は 510 kg／10a（8.5 俵）を基準とすること。

(2)　玄米タンパク含有率は、美味しさの基準である 6.0%を目標とすること。

(3)　稲わらは、田んぼにすき込み、堆肥や土づくり肥料等を施用し、土づくりに努めること。

(4)　種子は県内で獲れた種もみを使用し、毎年更新すること。

(5)　8 月 8 日以降に穂が出るよう、田植えは 5 月中下旬に行うこと。

(6)　稲の生育に合せて中干し・溝切りを行い、生育診断に基づき穂肥を施用すること。

(7)　稲の稔りを良くするため、落水は穂が出てから 25 日以降とし、高温の場合は可能な限り遅くまで落水しないこと。

(8)　胴割等の品質低下を防ぐため、適期に刈り取り、適正に乾燥すること。

(9)　整粒歩合の高い米に仕上げるため、調製には 1.90mm 以上の篩い目を使用し、丁寧に調製すること。

(10)　全量が 1 等米に格付けされるよう、稲をよく観察し、気象情報に留意して、て、適正に各作業を実践すること。

2.「安全・安心の米づくり」に向けた 5 か条

(1)　環境と調和の取れた農業生産活動を進めるため、農業環境規範を遵守すること。

(2)　気象変動による品質低下を避けながら化学合成農薬・化学肥料の使用量を慣行基準の 5 割以上減らすことを目指し、環境にやさしい農業に取り組むこと。

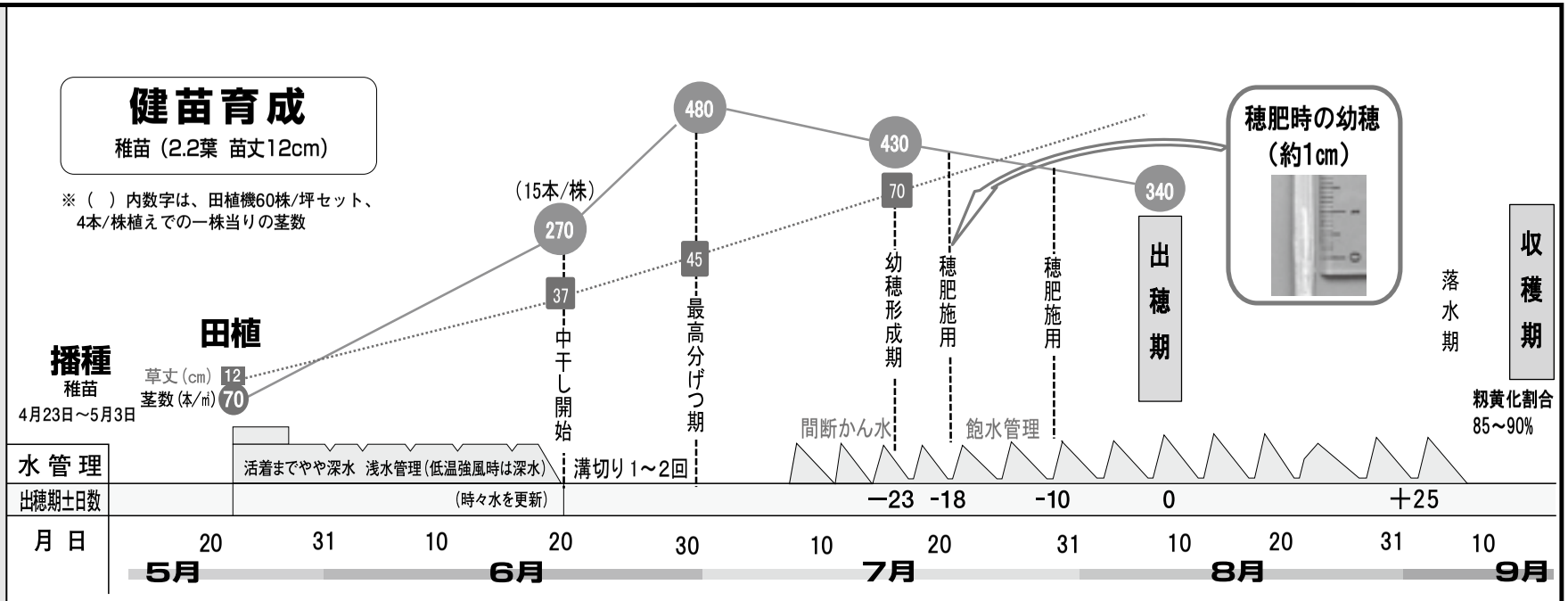
(3)　農道や畦畔は草刈りを基本とすること。

(4)　生産履歴を記帳し、いつでも履歴情報が公開できること。

(5)　GAP の取組みや、エコファーマーを目指すこと。

魚沼「コシヒカリ」栽培ごよみ

生育指標と水管理



病害虫防除例

防除薬剤と除草剤の使用は各農薬の化学合成農薬成分数を合計した数で9回以下の成分回数となるように使用してください。

種子消毒（温湯消毒、タフブロック）

初期害虫＋いもち病（育苗箱施用）

- スタウトパディート箱粒剤(2)
- ファーストオリゼパディート粒剤(2)
- ファーストオリゼプリンススピノ粒剤(2)

補植苗除去

草刈り（6月上旬）

一斉草刈り（6月下旬）

一斉草刈り（7月中下旬）

①畦畔は常にきれいに草刈りをしてください。
②年間を通じて畦畔をきれいに草刈りをしている場合は出穂期以降も継続的に草刈りを実施できます。

温湯消毒種子の場合は水を毎日更新

●農薬名の後ろの（ ）内数字は化学合成農薬成分数です。
●農薬は、一例を示したものです。これ以外の農薬、剤型も使用できます。

斑点米カメムシ類

剤名	剤型	散布適期
スタークル（1）	粒剤	出穂３日後～出穂７日後まで
	粉剤	基本は２回散布 穂揃期１回・散布１週間後１回
キラップ（1）	粒剤	出穂10日前～出穂期

こしいぶき栽培こよみ　（H31年１月版）

目標の収量構成と品質	
目標収量	540kg/10a
穂数	350本/㎡
1穂籾数	78粒
㎡当り籾数	27,300粒
登熟歩合	85%
千粒重	23.4g
整粒歩合	85%

栽培のポイント

(1) 育　苗 ～ 健苗育成（2.2L、12cm）、徒長させない
適正播種量にする（稚苗１箱当り130～140g）
こしいぶきは苗丈が伸びにくいので、**出芽長を１cmとし緑化期をコシヒカリより１日程度長め**とする
温度管理に注意し硬化管理を徹底する
弁当肥の施用（移植４～５日前）で活着促進

(2) 移　植 ～ １株苗数３～４本植えとし茎質を高める
茎数がとれにくいので、**栽植密度は平坦地60株／坪**をめやすとする

(3) 基　肥 ～ 目標穂数確保のための施肥量とする
基肥窒素量は、粘質土4kg/10a、黒ボク土5kg/10a程度とする

(4) 水管理 ～ 中干しは目標穂数の80%(280本/㎡)をめやすに行う
溝切りを徹底し根の健全化により茎質を向上させる
出穂１か月前までに中干しを終了させる
落水は出穂後25日以降とし根の活力保持により稲体活力を維持する

(5) 病害虫防除 ～ いもち病に対しては、**箱施用剤による葉いもち防除**と本田での**穂いもち防除**を基本とする
紋枯病が出やすいので、発生状況に応じて防除を行う

(6) 穂　肥 ～ 穂肥は１回目を出穂23日前、２回目を14日前に施用する

土質	１回目（窒素成分）	２回目（窒素成分）
黒ボク	2.0kg/10a	2.0kg/10a
粘質	1.5kg/10a	1.5kg/10a

※ １回目穂肥時期が遅れないように注意する

(7) 収穫・乾燥・調整 ～ 収穫は、出穂後積算気温975℃をめやすに、籾の黄化率85～90%時とする（高温年は２日程度早く収穫する）
胴割れ発生防止のため、急激な乾燥は避け、毎時乾減水分は0.8%以内とする
選別網目は1.9㎜とし、適正な流量でしっかりと選別を行う

(8) 土づくり ～ 稲わらの秋すき込みなど、継続的な土づくりに努める

生育時期区分

月	4月	5月			6月			7月			8月			9月
日		10	20		10	20		10	20		10	20		10

移植　分げつ開始　溝切り　中干し　最高分げつ期　幼穂形成期(-23)　減数分裂期(-12)　出穂期(0)　成熟期

緑化　硬化　活着　有効分げつ　無効分げつ　幼穂形成　穂ばらみ　登　熟

草丈	(cm)	12	29	44	58	80(稈長)	
茎数	(本／㎡)	73(4本植え)	270	560	560	350	
葉色	(SPAD)		40	41	40	37	

施肥基準

◎基肥のめやす（成分kg/10a）

地帯区分	窒素	リン酸	加理
黒ボク	5.0	6.5	5.0
粘質	4.0	5.2	4.0

◎生育量のめやす

6月30日			1回目穂肥時（幼穂形成期）			稈長(cm)
草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色(SPAD値)	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色(SPAD値)	
44	560	41	58	560	40	80

◎穂肥のめやす
穂肥は１回目を出穂23日前、２回目を14日前に施用する

土質	１回目（窒素成分）	２回目（窒素成分）
黒ボク	2.0kg/10a	2.0kg/10a
粘質	1.5kg/10a	1.5kg/10a

※ １回目穂肥時期が遅れないように注意する

水管理

保温的水管理　浅水管理　中干し・溝切り　飽水管理　常時湛水

管理の要点

徒長しない苗作り
- 健苗育成
- 薄播きの励行
- 硬化を十分に行う
- 弁当肥の施用
- **箱施用剤による葉いもち防除**
- 適期、適正栽植密度で移植
- 好天日浅植え

良質茎の確保
- 低温強風時の障害防止
- ワキの防止
- 梅雨入り前に良質茎を確保

稲体の健全化と生育調節
- 田面溝切り
- **目標穂数80%で中干し開始**
- 出穂１か月前までに中干し終了
- 中干し終了後は飽水管理

1回目穂肥
- **葉いもち早期発見・早期防除**

2回目穂肥
- **穂いもち粒剤防除**
- 高温時水の更新
- **本田での穂いもち防除**
- 出穂前後10日間は深水

稲体の活力維持
- フェーン時の深水
- 高温時水の更新
- 強風時の深水
- 早期落水をしない
- 落水期は出穂後25日以降

高品質米への仕上げ
- 適期刈り取り
- 適正な乾燥・調整
- 篩目1.9㎜

(籾黄化率85～90%)

【安全安心計画】

ＪＡ米を中心とした安全・安心の生産過程の履歴体制を構築し、魚沼米の信頼を確保します。

１．「ＪＡ米」の基本定義（下記の５項目をクリアすることが条件）

種　類	銘　　柄	等　級
うるち米	コシヒカリＢＬ・こしいぶき	１ ～ ２ 等
酒　　米	越淡麗・五百万石・たかね錦	特上～２等
もち米	こがねもち・わたぼうし	１ ～ ２ 等

１）ＪＡと出荷契約を締結した生産者が生産し、ＪＡに売渡委託した米穀。
２）種子更新を継続し、１００％種子更新された米穀。
３）登録検査機関で受検し、２等以上に格付けされた米穀。
４）ＪＡの栽培指導により品質向上を目指した栽培が行われ、生産履歴記帳が確認された米穀。
５）農産物検査時の水分値が 15.5%以下の米穀。

２．安全安心の重点項目

１）『魚沼米憲章』に基づき、農薬の使用基準を遵守し、農薬飛散防止にも配慮する。
２）種子処理から収穫・乾燥・調整まで各段階の作業点検を行い、異物・異品種混入（コンタミ）のない出荷体制を構築する。
３）出荷された米穀の中から抽出しＤＮＡ鑑定・カドミウム調査・残留農薬調査の確認を行う。

３．安全履歴・ＧＡＰ記帳の徹底

１）生産履歴・ＧＡＰ記帳を徹底し、記帳内容の一層の充実を図る。
２）検査開始までに生産履歴（第２回目・出荷時）を回収し、事前確認を行う。
３）生産履歴データを生産指導に活用し、更なる安全・安心確保と信頼確保に努める。

肥料のプラスチック殻

流出防止のポイント

環境と調和した持続可能な県農業に向け みんなで取り組みましょう

1 畦畔管理

●丁寧な畦塗りで漏水を防ぎましょう。
●止水板は畦の高さ以上とし水尻からの流出を防ぎましょう。

2 代かき・田植え時の水管理

●入水までに田面を均平にしましょう。
●代かきは浅水状態で行いましょう。
●田植え前は強制落水せず自然落水で水位調整しましょう。

3 浮遊したプラスチック殻の除去

●ほ場内で浮遊したプラスチック殻を見つけた場合はすくい取りましょう。

記入上の注意点

栽培履歴

1．ＪＡへ出荷する品種ごとに代表田を設定し、その代表田の栽培内容を記入する。
2．第三者に作業委託している作業の内容も、必ず委託先に確認をして記帳をする。
3．飯米農家でもカントリーエレベータ及びライスセンター等、共同施設の利用者は記帳と提出をする。
4．栽培履歴は、出荷米の「安全･安心」証明書なので、「生産者名」の欄は出荷契約者名を記入する。
5．GAP 部会と有機栽培部会の方は、各部会専用の栽培管理記録様式が定められていることから、このあぜ道日誌の栽培履歴は提出不要です。

栽培履歴の内容確認ができないものや、提出期限を守れなかったものは、罰則があります。

生産工程管理点検チェックシート

1．１生産者１枚を提出する。
2．自身が栽培した全作業について記帳する。
3．作業委託等で、不明な点は「－」で記入し、した「○」しない「×」で記入する。

この記入様式は、北魚沼のホームページにも掲載しております。

主要品目一覧

肥料		
用途	品名	規格
土づくり	ソイルキーパー Fe	20kg
	魚沼ロマンソイルキーパー	20kg
	魚沼ロマンアイアンスター	20kg
	苦土重焼燐	20kg
	みつパワー	20kg
	越後の輝き ソイル米（マイ）スター	15kg
元肥	越後の輝き 有機 50 元肥	20kg
	越後の輝き 有機 50 スーパー元肥	20kg
	越後の輝き 有機 30 元肥	20kg
	越後の輝き 有機 30 スーパー元肥	20kg
	エコレット０１８	20kg
	こしいぶきスーパー元肥 2 号	20kg
	フレーバーペースト７３４	20kg
	エコ有機ペースト０４３	20kg
	けい酸加里プレミア３４（元肥で使用）	20kg
	味好 2 号（元肥で使用）	20kg
追肥	魚沼ロマングルメエース	20kg
	けい酸加里プレミア３４（追肥で使用）	20kg
	ファイトアップ（１０a 用）	500g
穂肥	越後の輝き 有機 50 穂肥	20kg
	越後の輝き 有機 30 穂肥	20kg
	味好 2 号（穂肥で使用）	20kg

農薬		
用途	品名	規格
初期剤	メテオ 1 キロ粒剤	1kg
	メテオフロアブル	500ml
	メテオジャンボ	300g
	エリジャン乳剤	300ml
	アークエース 1 キロ粒剤	1kg
初中期一発	カウンシルコンプリート 1 キロ粒剤	1kg
	カウンシルコンプリート フロアブル	500ml
	ゼータタイガー 1 キロ粒剤	1kg
	ゼータタイガー ジャンボ	300g
	カイリキ Z 1 キロ粒剤	1kg
	カイリキ Z フロアブル	500ml
	カイリキ Z ジャンボ	300g
	天空 1 キロ粒剤	1kg
	天空 フロアブル	500ml
	天空 ジャンボ	300g
	アッパレ Z 1 キロ粒剤	1kg
	アッパレ Z フロアブル	500ml
	アッパレ Z ジャンボ	400g
	パワーウルフ 1 キロ粒剤 51	1kg
	アピログロウ MX 1 キロ粒剤	1kg
	アピログロウ MX ジャンボ	400g
	アクシズ MX 1 キロ粒剤	1kg
中・後期	クリンチャー 1 キロ粒剤	1kg
	クリンチャー 1 キロ粒剤	3kg
	バサグラン粒剤	3kg
	ワイドショット 1 キロ粒剤	1kg
	セカンドショット S ジャンボ MX	500g
	クリンチャーバス ME	500ml
	ゲパード 1 キロ粒剤	1kg
	ゲパード ジャンボ	400g
カメムシ	スタークル粒剤	3kg
	スタークル粒剤 DL	3kg
	キラップ粒剤	3kg
稲こうじ	モンガリット粒剤	3kg
	Z ボルドー粉剤 DL	3kg
殺虫・殺菌	ゴウケツモンスター粒剤	3kg
	フジワンラップ粒剤	3kg

『栽培履歴』の記入例

代表田の内容を記入してください。
（栽培体系が大きく異なる場合は、栽培体系ごとに栽培履歴を記入・提出してください）

☆代表田の栽培内容を記入してください。

令和５年産　「JA北魚沼米」　栽培履歴

取引先コード		前年秋耕	（令和４年）　10 月 10 日
生産者名	営農　五郎	耕起（春）	月　日
生産者住所	魚沼市井口新田 645-13	代かき	5 月 10 日
電話番号	025-793-1770	田植え	5 月 15 日
苗購入先 ※購入先を必ずご記入下さい	自家育苗　・　（JA） 自家育苗・JA以外からの購入の場合は下記へ その他購入先名称 （　）	植付株数	50 ・（60）・ 他（　）株／坪
		中干し	6月 10日～　月　日
		出穂日	8 月 8 日（圃場全体が40%～50%出穂となった日）
品種名	（コシヒカリBL）・ 他（　）	完全落水日	9 月 2 日
作付総面積	53.5 アール	収穫開始日	9 月 17 日

肥料

施肥日	肥料名	施肥量（10a当り）	
R4 年 10月 10日	魚沼ロマンアイアンスター	60	kg/10a
R5 年 5月 15日	越後の輝き 有機 50 元肥	40	kg/10a
年 6月 30日	魚沼ロマングルメエース	20	kg/10a
年 7月 18日	越後の輝き 有機 50 穂肥	8	kg/10a
年 7月 26日	越後の輝き 有機 50 穂肥	8	kg/10a
年 月 日			kg/10a

散布日	農薬名	散布量（10a当り）	
R5 年 5月 15日	スタウトバディート箱粒剤	50g/箱	/10a
年 5月 15日	ジャイロ１キロ粒剤	1 kg	/10a
年 6月 28日	クリンチャーバスME液剤	100倍液 100ℓ	/10a
年 7月 17日	Zボルドー粉剤 DL	3 kg	/10a
年 8月 13日	スタークル液剤	1,000倍液 150ℓ	/10a
年 月 日			/10a

畦畔除草剤（どちらかに○）	畦草刈年	自由記入欄（消費者へのメッセージなど自由に記入してください）	ＪＡ確認欄
使用	令和５年 月 日		確認
	令和５年 月 日		
	令和５年 月 日		

10aあたりの施肥量を記入

箱処理済は箱当たりの使用量を記入

液剤の場合、希釈倍率と散布量を記入

JA以外の資材を使用した場合は、肥料成分等がわかるよう記入してください。

●使用した資材は納品書を確認し、下記の例のように、正式名称を略さずに記入してください。

（誤）越後の輝き　有機 50　⇒　（正）越後の輝き　有機 50　元肥

※作業を委託している場合でも、委託先に確認し、資材名や使用量を記入してください。

提出用

☆代表田の栽培内容を記入してください。

令和５年産　「JA北魚沼米」　栽培履歴

提出用（提出は7月10日㈪まで）

取引先コード		前年秋耕	（令和４年）　月　日
生産者名		耕起（春）	月　日
生産者住所		代かき	月　日
電話番号		田植え	月　日
苗購入先 ※購入先を必ずご記入下さい	自家育苗　・　ＪＡ 自家育苗・JA以外からの購入の場合は下記へ その他購入先名称 （　　）	植付株数	50　・　60　・　他（　　）株／坪
		中干し	月　日～　月　日
		出穂日	月　日（圃場全体が40%～50%出穂となった日）
品種名	コシヒカリBL　・　他（　　）	完全落水日	月　日
作付総面積	アール	収穫開始日	月　日

	施肥日	肥料名	施肥量（10a当り）
肥料	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a

	散布日	農薬名	散布量（10a当り）
農薬	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a

畦畔除草剤（どちらかに○） 使用 ・ 不使用	畦草刈年月日	令和５年　月　日	自由記入欄（消費者へのメッセージなど自由に記入してください）
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	

ＪＡ確認欄	
確認印	㊞

裏カーボン

提出用

☆代表田の栽培内容を記入してください。

令和５年産　「JA北魚沼米」　栽培履歴

取引先コード		前年秋耕	（令和４年）　月　日
生産者名		耕起（春）	月　日
生産者住所		代かき	月　日
電話番号		田植え	月　日
苗購入先 ※購入先を必ずご記入下さい	自家育苗　・　ＪＡ 自家育苗・JA以外からの購入の場合は下記へ その他購入先名称 （　　）	植付株数	50　・　60　・　他（　　）株／坪
		中干し	月　日～　月　日
		出穂日	月　日（圃場全体が40%～50%出穂となった日）
品種名	コシヒカリBL　・　他（　　）	完全落水日	月　日
作付総面積	アール	収穫開始日	月　日

提出用（米の初出荷時に提出）

	施肥日	肥料名	施肥量（10a当り）
肥料	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a

	散布日	農薬名	散布量（10a当り）
農薬	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a

畦畔除草剤（どちらかに○） 使用 ・ 不使用	畦草刈年月日	令和５年　月　日	自由記入欄（消費者へのメッセージなど自由に記入してください）
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	

ＪＡ確認欄

確認印　㊞

裏カーボン

☆代表田の栽培内容を記入してください。

令和５年産　「JA北魚沼米」　栽培履歴

取引先コード		前年秋耕	（令和４年）　月　日
生産者名		耕起（春）	月　日
生産者住所		代かき	月　日
電話番号		田植え	月　日
苗購入先 ※購入先を必ずご記入下さい	自家育苗　・　ＪＡ 自家育苗・JA以外からの購入の場合は下記へ その他購入先名称 （　　）	植付株数	50　・　60　・　他（　　）株／坪
		中干し	月　日～　月　日
		出穂日	月　日（圃場全体が40%～50%出穂となった日）
品種名	コシヒカリBL　・　他（　　）	完全落水日	月　日
作付総面積	アール	収穫開始日	月　日

	施肥日	肥料名	施肥量（10a当り）
肥料	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a
	年　月　日		kg/10a

	散布日	農薬名	散布量（10a当り）
農薬	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a
	年　月　日		/10a

畦畔除草剤（どちらかに○） 使用 ・ 不使用	畦草刈年月日	令和５年　月　日	自由記入欄（消費者へのメッセージなど自由に記入してください）
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	
		年　月　日	

ＪＡ確認欄

確認印　㊞

農家控え

裏カーボン

提出用（出荷時）

令和５年産米　生産工程管理チェックシート

取引先コード	
生 産 者 名	
生産者住所	
電 話 番 号	

項目		点検項目	結果
準備	必須	万が一の事故やけがに備えて自動車共済や傷害共済等に加入していますか。	
播種・育苗	憲章③	稲わらは、田んぼにすき込み、堆肥や土づくり肥料等を施用し、土づくりに努めること。	
	必須	種子や苗は、取り違えのないよう品種ごとに明確に区分しましたか。	
	必須	播種作業前や品種切替時に、播種機を清掃しましたか。	
	必須	権利が保護されている種苗について、増殖・譲渡や県外への持ち出しを行わないなど、適切な管理を行いましたか。	
栽培管理	憲章	土壌診断を実施し、その結果を活用した施肥を行いましたか。	
	憲章②	玄米タンパク含有率は、美味しさの基準である6.0%を目標とすること。	
	必須	代かき後の濁水や肥料・農薬施用直後の水田水を流出させませんでしたか。	
	必須	一圃場につき、一品種を移植しましたか。	
	必須	前年に他品種を植えた圃場は条間の苗を抜き取りましたか。	
	必須	複数品種栽培農家は、品種切り替え時に田植え機を清掃しましたか。	
	憲章④	**種子は県内で穫れた種もみを使用し、毎年更新すること。** ※育苗をJA施設に委託している生産者は○×関係なく達成とみなしてください。また、育苗委託先がJA以外の場合、種子協会（JA）経由の供給であれば同様の対応としてください。	
	必須	補植（植え直し）は同一品種の苗を使用しましたか。	
	必須	農薬の使用後は、防除器具を十分に洗浄しましたか。	
	憲章⑤	８月８日以降に穂が出るよう、田植えは５月中下旬に行うこと。	
	重要	県病害虫防除所の病害虫発生予察情報の活用や圃場確認などにより、適時適切な防除を行いましたか。	
	必須	農薬は、農薬ラベルに記載されている使用方法を守りましたか。	
	必須	飛散防止ノズル使用や強風時の散布中止等、農薬飛散低減対策を行いましたか。	
	憲章⑬	農道や畦畔は、草刈りを基本とすること。	
	憲章⑥	稲の生育に合わせて中干し・溝切りを行い、生育診断に基づき穂肥を施用すること。	
	憲章⑩	全量が１等米に格付けされるよう、稲をよく観察し、気象情報に留意して、適正に各作業を実践すること。	

項目		点検項目	結果
栽培管理	重要	肥料は、栽培暦や稲作情報等に基づき施用しましたか。	
	必須	クサネム等の雑草を除去しましたか。	
	憲章⑫	気象変動による品質低下を避けながら化学合成農薬・化学肥料の使用量を慣行基準の５割以上減らすことを目指し、環境にやさしい農業に取り組むこと。	
	重要	９月初旬に倒伏していませんでしたか。	
	憲章⑪	環境と調和の取れた農業生産活動を進めるため、農業環境規範の遵守すること。	
	憲章①	美味しさと品質を最優先した米づくりとするため、目標収量は510kg/10a（8.5俵）基準とすること。	
収穫・乾燥・調製・出荷	必須	倒伏や病害虫による被害籾は区分して収穫しましたか。	
	必須	収穫作業前や品種切替時にコンバインを清掃しましたか。	
	憲章⑦	稲の稔りを良くするため、落水は穂が出てから25日以降とし、高温の場合は可能な限り遅くまで落水しないこと。	
	必須	収穫後は、速やかに乾燥を行いましたか。	
	必須	乾燥・調製作業前や品種切替時に各設備を清掃しましたか。	
	重要	包装資材は適切に保管し、使用の際は取り違えがないことを確認しましたか。	
	必須	JAへ出荷した際に発行された集荷伝票等は保管していますか。	
	憲章⑧	胴割等の品質低下を防ぐため、適期に刈り取り、適正に乾燥すること。	
	重要	過乾燥を防止し、水分は14.5%～15.0%に仕上げましたか。	
	必須	籾摺り調製初期の玄米は別管理し、出荷を回避しましたか。	
ＪＡ米	重要	ＪＡから、ＪＡ米の要件や取扱条件について指導を受け、理解しましたか。	
全般	憲章⑭	生産履歴を記帳し、いつでも履歴情報が公開できること。	
	必須	種子の保証票や苗の証明書、生産資材の購入伝票等は保管していますか。	
	重要	あぜ道指導会など各種研修会に参加し最新の情報の確保に努めましたか。	
	必須	農薬は、農作物や他の生産資材等と区別し、鍵のかかる専用の保管庫で保管されていますか。	
	必須	燃料は専用の容器を使用し、鍵のかかる専用の場所に保管されていますか。	
	必須	農業生産活動に伴い発生する廃棄物は業者委託等により適切に廃棄しましたか。	
	重要	農業機械は作業前後で点検を行い、必要に応じて調整や修理を受ける等の処置をとりましたか。	
	重要	作業環境に適した服装や防護具を着用し、安全な作業が確実に実施できるよう対策を講じましたか。	
	憲章⑮	GAPの取組みや、エコファーマーを目指すこと。	
	憲章⑨	整粒歩合の高い米に仕上げるため、調製には1.90㎜以上の篩い目を使用し、丁寧に調製すること。	

自分に関係のない【項目】は、「－」を引いてください。

令和５年 3月

作業計画に基づいた適期作業を実施しよう。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

重点作業

適期作業の実施！

田植え時期に合わせた適期播種で老化・徒長苗の発生を防ぎましょう。

4月

ケイ酸入りの土づくり肥料でストレスに強い稲づくり！

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 / 30	24	25	26	27	28	29

重点作業

米づくりは土づくりから！ 耕起前の土づくり肥料散布は、まだ間に合います！

5月

初期分げつを確保しよう！

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
	～ 一般的な田植えの最適期は5/20～5/25 ～					
21	22	23	24	25	26	27
	除草剤は適期を逃さず散布					
28	29	30	31			

重点作業

晴天の日に浅植えする！

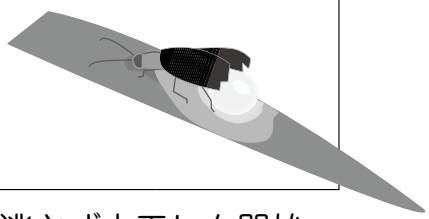
植え傷みを防ぐため、田植え直後はやや深水管理とし、活着後は浅水管理とする。

中干し開始の目安は田植え後25日!!

6月

中干しの遅れは籾数過剰につながり、籾数過剰ほ場では、
３等、規格外に格付けされる可能性が高くなります。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
		一斉草刈りの時期です				
		～ 地耐力確保と根の健全化のために、生育にあわせた中干しを実施しよう ～				
11	12	13	14	15	16	17
					ゲンジボタルが出現し始める時期です	
			稲の生育を確認し、中干しを実施しましょう			
			5/20 田植えの場合、6/14 で 25 日後となります。			
18	19	20	21	22	23	24
				～ 降雨で溝切りの構が埋まったら再度溝切り実施～		
25	26	27	28	29	30	



重点作業 **適期中干しの徹底！**

ほ場で茎数を確認し、適期を逃さず中干しを開始しましょう。
中干し開始の目安：270 本 /m^2（15 本 / 株）

穂肥と水管理は食味に直結します！
ぜひ最寄りのあぜ道研修会へ参加ください！

7月

ケイ酸質肥料の追肥でイネの活性を維持しよう！

日	月	火	水	木	金	土
						1 下部節間が伸びはじめる時期です
2	3	4 アオイの花が見ごろです ～ 遅くても 7/5 頃が中干し終了のめやすです ～	5	6 ～ 幼穂形成期です（この時期から出穂 25 日後までは特に水が必要です）～	7	8 トノサマガエルの子どもがたくさんいる時期です
9	10	11 穂肥のタイミングを見極めましょう	12	13	14	15
16	17	18 ～ 一発基肥を使用していても葉色が淡い場合は穂肥施用を ～	19	20	21	22
23 30	24 31	25 ～ 出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシをほ場へ追い込む可能性があるので控えましょう ～	26	27	28	29

重点作業

魚沼米は食味が命！

『魚沼産コシヒカリ』の産地にふさわしい米づくりを実践しましょう。

8月

稲のために完全落水は穂が出てから
25日以降としてください！

フェーン発生の緊急時には、夜間潅水やこまめな水管理で高温障害を軽減しよう！

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
			～ほ場全体の40～50%の穂が出た日が『出穂期』です～			
6	7	8	9	10	11	12
		目標出穂期は8/8です				
13	14	15	16	17	18	19
				～稲は水分がないと養分が吸えません～		
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
	～フェーンの後は水の更新をしましょう～					

重点作業　**水管理の徹底！**

水稲は最後まで水が必要です！落水は出穂後25日以降とし、高温の場合はできる限り30日まで落水しないようにしましょう。

9月

収穫の適期は意外と短い！（適期は約４日間程度）

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
				～ 刈り遅れ防止と丁寧な乾燥・調整を ～		
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
						コスモスが見ごろです
24	25	26	27	28	29	30

重点作業

適期稲刈りの徹底！

各地区展示圃に設置されている積算温度計を確認し、収穫適期を逃さないようにしましょう。

10月

土壌分析の希望受付は、10月末が締切です！

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
		～ 稲わらすきこみ、土づくり資材の散布を終わらせましょう ～				
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

重点作業

土壌分析の実施！

良い土は根が健康に生活できるような条件をつくり出せる土です。田んぼが今どんな状態かを確認するために土壌分析を実施しましょう。

11月

作業場や機械類の整理整頓を実施しよう！

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

重点作業

機械類の点検整備！

機械を長く使うには点検整備が重要です。1 年間がんばってくれた機械類を点検しましょう。

12月

あぜ道日誌を確認して反省点を記録しましょう。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 / 31	25	26	27	28	29	30

重点作業

栽培記録の確認！

元肥量は適正でしたか。穂肥量と散布時期は適正でしたか。作業内容の再確認を行いましょう。

令和6年 1月

新しい年の幕開けです。
春作業に向けてしっかりと充電しましょう。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

重点作業

確定申告の準備開始！

農業所得支援システム関係の書類が届きます。
確定申告に向けてしっかりと準備しましょう。
経営状況の把握はコストカットにつながります。

2月

今年度の重点対策を確認しよう！

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

重点作業

作柄検討会への参加！

各地区で作柄検討会が開催されます。前年の振り返りと今年度の重点対策を確認しましょう。

稲作携帯メールサービスを
ご活用ください！

フェーン等緊急情報など迅速に配信

農作物の生育状況、技術対策、研修会の案内や異常気象に関する緊急情報を配信しています。新規に携帯メールを受信したい方はいつでも登録可能ですので、下のＱＲコードからご登録ください。

携帯メールを新規に希望される方へ

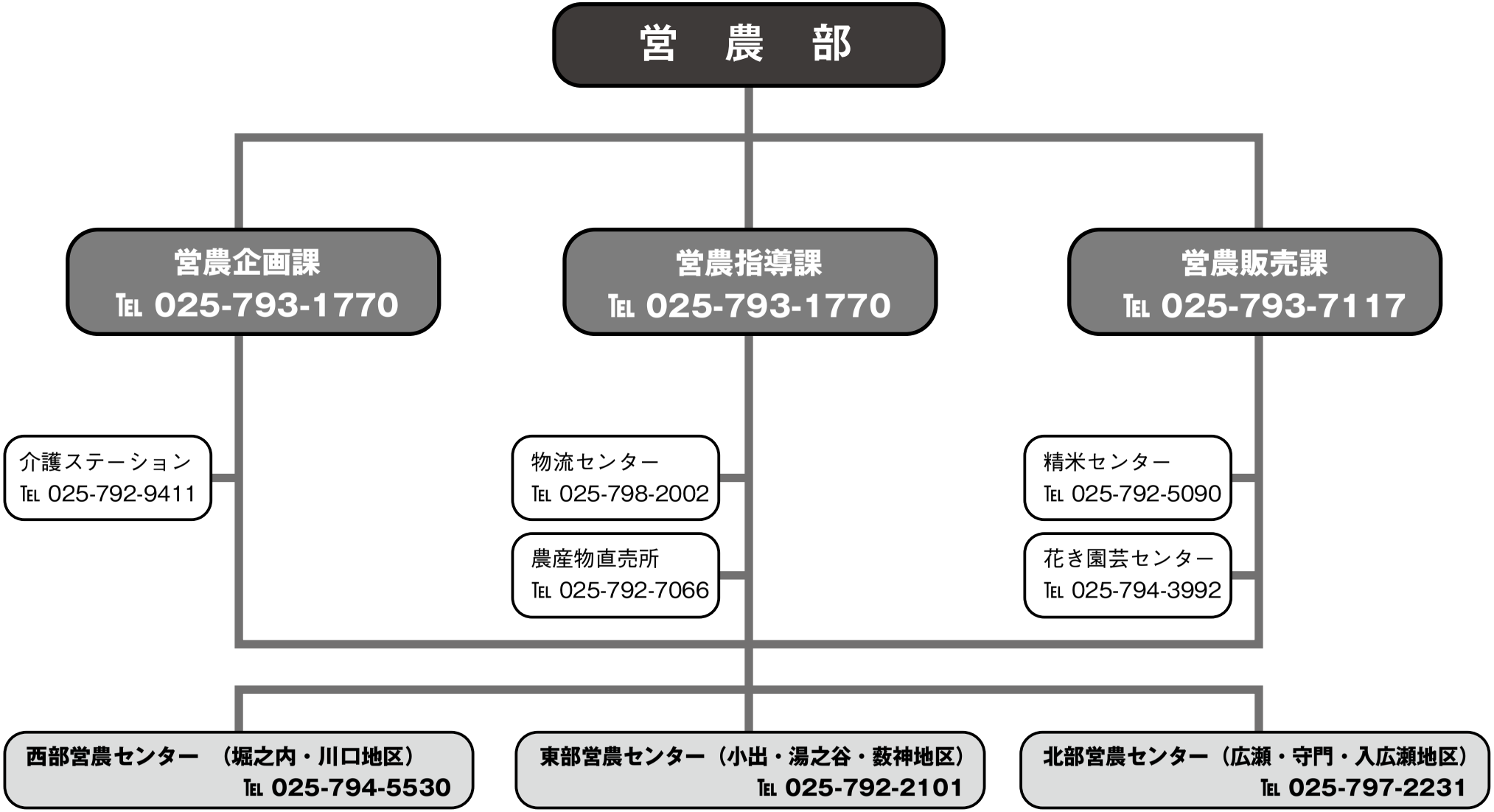
稲作携帯メールサービスを【新規】に携帯メールを申し込む方は、右のＱＲコードから登録をお願いします。

不明の点は下記までご連絡お願いします。

【新規】申込者用
ＱＲコード

生育状況、技術対策、研修会案内等のメール配信に加え、異常気象に関する緊急情報も行っています。多くの方の利用をお願いします！

※なお、すでにご登録いただいていた方のうち、いつのまにか携帯メールを受信できなくなって困っている方などいらっしゃいましたら下記までお気軽にご相談ください。

お問い合わせ：ＪＡ北魚沼営農指導課　025-793-1770（担当：須佐）
または、各営農センター稲作指導員へお問い合わせください。

JA 北魚沼 営農部連絡表